

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2016.12 vol. 128

「心臓病・脳卒中救急センター」 開設

鹿児島医療センターの運営につきましては、日頃からご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当院では脳卒中の救急患者に迅速に対応するため、脳卒中ホットラインを設置するなど、脳卒中の救急患者を積極的に受け入れてきました。

さらに今回11月1日をもって、24時間365日心臓病・脳卒中における重症及び重篤な患者をよりいっそうスムーズに受け入れるため、新たに「心臓病・脳卒中救急センター」を開設いたしました。

従来稼働していた脳卒中ホットラインに加え、さらに迅速で的確な心臓病救急患者対応のため心臓病ホットラインも開設し、病院一丸となってより一層充実した救急対応の体制作りにも努めて参ります。特に内科・外科の垣根を越えた医療を展開しており、脳卒中患者については脳血管内科・脳神経外科との連携、当番制をとっております。また、急性心筋梗塞をはじめとした心臓病救急患者については、もともと内科・外科の合同循環器科としての活動実績もあり循環器内科と心臓血管外科の堅固な協力体制を構築しております。

そもそも冠動脈疾患と脳血管疾患は同一患者で合併していることも多く、日常臨床でもしばしば合併症例と遭遇します。

国の医療計画によれば疾病ごとの医療体制が示されており、5疾病として取り上げられている急性心筋梗塞、脳卒中においてはとりわけ早期の医療介入が求められています。具体的には急性心筋梗塞の救急医療では来院後速やかに初期治療を開始するとともに、30分以内に専門的治療を開始することが目標とされております。同様に脳卒中の救急医療体制では、来院後1時間以内の専門的治療開始が目標とされております。もちろんいずれの治療も専門医の下に施行されることが望ましいと思われま。もとより医療の質はスタッフの数のみではないと思いますが、ちなみに当院の循環器内科所属医師は19名（うち、学会認定の循環器専門医は10名）、心臓血管外科医師は6名（うち、学会認定の心臓血管外科専門医は3名）、脳血管内科医師は6名（うち、学会認定の脳卒中専門医は3名）、脳神経外科医師は3名（全て学会認定の脳神経外科専門医）です。

最後に、数としても鹿児島県の死因第2位の心疾患（15%）と第3位の脳血管疾患（11.7%）については、合計でガンを上回るということはよく知られた事実であり、全国に先駆けて高齢化が進行している当県において今後20年、増加が見込まれる心臓病と脳卒中に備えることは医療者としての急務であると考えます。

11月から開設した当院の「心臓病・脳卒中救急センター」を何卒宜しくお願い致します。

（文責：鹿児島医療センター 統括診療部長 中島 均）



平成28年度

循環器病看護エキスパートナース研修会を開催して

平成28年10月17日から10月26日の8日間、国立病院機構九州グループ主催の循環器病看護エキスパートナース研修を当院で開催しました。循環器病看護エキスパートナースとしての実践能力の向上を図る、循環器病に特有な検査・治療・処置を理解することを目的として研修を行いました。研修生は、九州管内10施設から循環器病看護の経験が3年以上であり、かつ循環器病看護実践の役割モデルとして将来期待できる13名が参加しました。

研修内容は、循環器病の病態と診断・治療、およびそれに伴う看護について、医師や薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、管理栄養士、認定看護師など多職種の講師により、実践に即した講義や、フィジカルアセスメントの演習を行いました。それを踏まえて、手術室・心カテ室・救急外来・メディカルサポートセンター（MSC）の見学、および集中治療室と循環器病関連病棟で実習を行いました。

特別講演は、別府医療センターの急性・重症患者看護専門看護師の吉田嘉子先生に「救急・重症患者と家族のための心のケア」のテーマで講演をしていただきました。研修生より「危機的状況にある患者・家族への介入方法やプロセスを具体的な事例があり理解しやすかった」「早く病棟に帰って臨床で活かしたい」等の感想がありとても好評でした。

研修生は、初日は緊張した様子でしたが、懇親会もありすぐに打ち解けお互いの施設の情報交換や講義後の質問を活発にする姿がみられました。最終日の研修で学んだことや今後の取り組み等についての発表は時間が足りない位で、研修生の熱意をとても感じました。

研修後のアンケートでは、「普段見ることの出来ない手術室や心カテ室看護師の役割などを見学できたことは大変良い経験になった」「地域連携室はあるがMSCはないので入院前からの支援など勉強になった」「講義や実習を通して学んだことも多く、今後も多くの事を学ぶ必要性を痛感し、自己の課題が明確になった研修であった」等の感想が聞かれました。これらの意見を踏まえて、来年度もさらに充実した研修を企画したいと考えております。

最後に、研修生の皆様が、今回の研修で学んだことを看護実践の場で活かし、循環器病看護エキスパートナースとして活躍されることを期待しております。

(文責：東6階病棟看護師長 園田 喜子)



「第65回おはら祭り」に参加しました

11月2日(火), 3(水)の2日間、鹿児島市にて南九州最大のお祭り「第65回おはら祭り」が開催されました。当院は11月2日の夜祭りに、医師・看護師・多職種等約200名で参加致しました。例年より参加人数も多く、本番に向けての3回の合同練習には多くの職員の方に参加して頂き、練習を行うことができました。イベントチームである私が鹿児島島出身ではないということもあり、踊りのDVDを参考に行いましたが、経験者の方も多く参加して頂き、私も含め初心者の方に手助け・声掛けを行って頂き徐々に踊りも揃っていきました。改めて、多職種間のコミュニケーションや団結力を実感しました。

当日は、朝から天候に恵まれ天気心配もなく祭りを迎えられました。まず、院内で記念写真撮影を済ませ、院内の1階フロアで入院患者さんへ踊りを披露した後、会場へ向かいました。夕暮れ時の時間帯はすごく冷え込んでいましたが、ハッピー姿・浴衣姿の大踊り連で意気揚々と踊りを披露することができました。市役所前から山形屋前のメイン通りまで、たくさんの方々の声援を頂き、最後まで笑顔で踊ることができました。また、踊り終わった後は全員で成し遂げた達成感を得ることができました。

今回、おはら祭りに参加して、鹿児島医療センター職員のチームワークや団結力を感じることができました。そして何より院内でお披露目した時の患者さんの笑顔を思うと、いろいろ苦労したことも吹き飛び、また来年も参加したいと思いました。

(文責：医療サービス向上委員会イベントチーム 安永 容子)



第3回 がん市民公開講座



平成28年11月6日に第3回のがん市民公開講座を鹿児島県医師会館大ホールで腫瘍内科と血液内科が担当して開催致しました。第1回は消化器がん、第2回は頭頸部がんをテーマに開催されましたが、今回は当院のがん診療科全体を知っていただきたいとの目的もあり、8つのがん診療科（消化器内科、外科、耳鼻咽喉科、婦人科、泌尿器科、皮膚・皮膚腫瘍科、腫瘍内科、血液内科）全ての診療科が担当している主ながんについて、「ここまで治る!?がん治療の最前線」と題して開催いたしました。第一部は日本人に多いいわゆる5大がんについてと当院でその

他に診療しているがんの最新の治療についてのお話をいたしました。日曜日の午後からの開催にも関わらずおかげさまで参加希望の方も多く、県医師会館の第ホール1階席が満席となり2階席まで使い多くの方々に参加をいただきました。わが国では2人に1人ががんになる時代と言われており、テレビなどで活躍されている方々もご自身のがんを公表され、その治療についての報道がなされ、一般の方々も関心が高いものと思います。報道を通じてご存知のように最近ではがん治療の分野も次々に新しい治療が開発されてきています。今回の市民公開講座の講演を通じて世界標準の最新治療を導入したいとの当院全がん診療科の思いが皆様に伝わり、当院で行っているがん診療全体について少しでもご理解いただき、今後の治療にお役立ていただければ幸いに存じます。今回がん系全診療科が講演した関係上、一つの講演に十分な時間が取れず短かったとのご意見をたくさん頂戴いたしました。お話できなかったその他疾患や治療法についても受診された際に主治医とじっくりご相談いただければより良い治療法が選択できるのではないかと考えます。

また、参加ご希望の時点でもご質問をたくさんいただきましたが、当日にも多数のご質問をいただいております。担当の不手際で質疑応答の時間が十分にお取りできませんでしたので、連絡先をいただいている方々へのご質問についてはできる限りお返事をお送りしたいと考えております。

最後になりましたが、ご後援いただきました鹿児島県、鹿児島市、鹿児島県医師会、鹿児島市医師会、鹿児島県歯科医師会、南日本新聞社に厚く御礼申し上げます。さらに第3回の市民公開講座に携わった当院がん診療科スタッフ全員にも御礼申し上げ、たくさんいただきました皆さまのご意見をもとにまた次年度につなげていきたいと思っております。

(文責：血液内科部長 大塚 真紀)



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

代TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・椎原・吉留・菊永・久保・櫻木・田辺・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

